

実践事例

1 小平市立小平第六小学校

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



1 小平市立小平第六小学校

実施日：平成26年8月28日(木) 13:30～14:30

実施対象：教職員（30名）

動物：ウサギ（3羽）モルモット（2匹）

【実践の概要】

本校が飼育しているウサギとモルモットの習性や飼い方について、教職員を対象とした研修会を設定した。それぞれの動物の寿命や動物由来の感染症について、学校担当獣医師が説明した。

特に、かかりやすい病気を予防するための一般的な注意や、動物を病気にさせないためのポイント、児童と動物が触れ合う場合の注意事項について、教職員は熱心に聞いていた。



教職員が動物を抱いている様子

【学校担当獣医師との連携】

事前の打ち合わせでは、動物の飼育状況について共通理解を図った。その飼育状況を踏まえ、当日は、「学校における望ましい動物飼育」という学校動物飼育の専門的な資料を使うこと、児童に体験学習を行う場合の流れや準備することなどについて説明をすること、教職員全員が動物を膝の上に載せて抱く体験を行うことを決めた。

【教員の反応】

- 教職員の中には、初めて動物に触れて感激した教員もあり、教職員全員が動物を膝の上に載せて触れ合ったことは、大変意義があった。
- 研修会後は、飼育担当の教員以外でも、自信をもって動物に関わる姿が見られるようになった。

